

「5訂版 キャリアデザイン概論」 を活用したキャリア教育

コロナ禍における自己学習としての活用

日本体育大学 非常勤講師

島原富士江



本年度は、コロナ禍のため授業は非対面となり、オンデマンド方式で個別課題提出となった。そのため、「キャリアデザイン概論」とウェブサイトを活用し、自己理解、仕事理解を深めることをねらいとして課題を組み立てることにした。

シラバスの内容は、労働環境が変化する中で若者のキャリア形成を支援していくため、職業を通して社会参加していく意義や職業意識を高め、自らの職業適性に合わせたキャリアデザインができるようにサポートする構成である。

非対面だったため提出期限を決め、期限に遅れた場合は減点とし、まとめた提出は認めずに毎週提出することとした。特に本をまとめるのではなく自分の考えで意見がまとめられているかを重視し、ワードを使って文字制限を400～800文字程度とした。

以下、全15講のうち5講をとりあげ、内容、キャリアデザイン概論の使用ページとその解説、学生のレポートから一部を抜粋し、紹介する。

第3講

キャリアデザイン概論(60～91ページ)を読んで、VRT、VPI、GATB、クレペリンの4つのアセスメントについて、検査に対する自分の考えや意見を書く。

職業適性には仕事などの程度うまくできるか、職業遂行に必要な技術や知識を持っているか、自分の興味、自信はどの領域にあるか、作業をする時の作業性格を理解することは大事なことである。それぞれのアセスメントを理解して活用する方法を理解させる。

学生のレポートから

私はGATB能力側面からの職業適性の測定に一番興味を湧きました。今回、教科書で紹介されたGATBは、自分が高校時代に行った適性検査よりもいろんな分野の適性がわかるので、私もやってみたいなと思いました。確かに、適性検査で出してきた結果を全て受け入れて、参考にしすぎるのも良くないと思いますが、自分がその結果を踏まえて、納得をして進路を決めていくのであれば、適性検査というのはとても良いものだと思います。進路に行き詰って悩んでしまう人はたくさんいるし、適性検査は意義があると思うので、どんどん活用されることを願います。

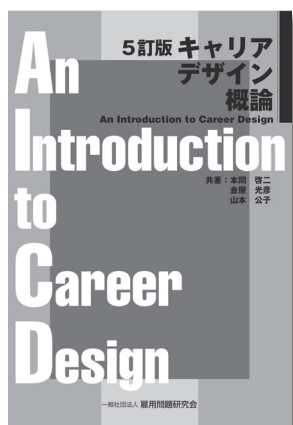
第4講

キャリアデザイン概論(38～45ページ)「自分を知る」「自己理解の方法」を読んで自己理解の必要性について自分の意見を書く。

将来の人生を考えたときに自分の特徴や得意な能力を生かした仕事に就いて、生き生きとした生活を送っていると期待したいものである。様々な角度から自分をより深く知る、自分自身を等身大で深く知ることが目的とした。

学生のレポートから

誰もが自分の過去の意思決定に後悔したことがあると考えられます。その後悔を減らすために必要となるのが自己理解であると自分は思います。意思決定を迫られる場面では自分にとって最適な選択は何なのか、過去の経験や過去の後悔から自分の考えや性格などを理解することが必要になると思います。また、自分にとって居心地の良い環境を作るためには自分がどのような環境を欲しているのか、どのような人と関わっていきたいのかを理解することが必要だと考えます。また、自分の性格は周りの環境や年齢によって随時変化していくものだと思うので、一時の自分の性格を今の自分の性格であると決めつけず、同じ議題に対してどのような心情の変化を持っているのかを知ることで、自分の心の成長や変化に気づくことができると思います。



5訂版 キャリアデザイン概論

本間啓二・金屋光彦・山本公子 共著

A5判 208ページ

ISBN978-4-87563-270-2

5訂版発刊:2020年1月

発行:一般社団法人雇用問題研究会

●構成

- 第1章 人はなぜ働くのか
- 第2章 自分を知る
- 第3章 適性とキャリア選択
- 第4章 職業世界を知る
- 第5章 キャリアデザイン
- 第6章 就職活動に臨む

第5講

キャリアデザイン概論(46～58ページ)
チャレンジ自己分析を実施し、その結果をふまえて感じたこと、考えたことをまとめて書く。

仕事に対するコンピタンス、動機、価値観などの傾向について自分の考えを深めるための自己評価、長所発見ワーク、短所置き換えワーク、自己との対話ワーク、これからの自分ワーク、ジョハリの窓ワーク、を通して自己分析する。

●学生のレポートから

自分の長所は短所にもなることをあらためて気づいた。また、長所発見ワークで、自分の性格についてあらためて知ることができた。負けず嫌いで、根気強く、経験豊かであることが長所である。勝負事以外の争いごとが嫌いで、基本的に人に優しくできる方である。そういった性格も生かせるような仕事に就きたい。自分の勝負事に対しての強い気持ちと、人の痛みを理解する力を生かせる仕事に就きたい。自己との対話ワークで、自分の考えていることをさらに具体的に考え、なぜなのか、今後どのようにしていかなければならないのかを、見つめ直すことが出来た。今後も、キャリアのことを考える時だけでなく、自分のあらゆる課題に対して、自己分析していく必要性があると考えている。

第8講

キャリアデザイン概論(104～107ページ)
と、資格サイト(「資格キング」等)を確認して【資格名】(種別(国家、公的、民間など))【この資格を選択した理由と調べた感想】を書く。初めて知った資格、または面白いと思った資格を選んで具体的に調べる。

資格・免許は非常に種類が多く、資格取得を目指す人も多い。希望する職業との関係、資格・免許内容、資格取得の目的をはっきりさせて情報を得るとともに、取得方法も調べさせることを重視した。

●学生のレポートから

私は、健康を食と栄養の専門職としてサポートする管理栄養士の資格に興味を持ちました。理由は、普段から栄養に気をつけているということもあり、子どもたちに食の楽しさを伝える方法や病気の人のサポートについて詳しく知りたいと思ったからです。管理栄養士は、厚生労働大臣の免許を受けた国家資格で、病気を患っている方や高齢で食事がとりづらくなっている方、健康な方一人ひとりに合わせて専門的な知識と技術を持って栄養指導や給食管理、栄養管理を行うと分かりました。一方で、栄養士は都道府県知事の免許を受けた資格で、主に健康な方を対象にした栄養指導や給食の運営を行うと理解しました。

第10講

キャリアデザイン概論(15～35ページ)
を読み、日本版O・N・E・Tのサイトを見て、自分がどのような働き方をしたいか、その理由を含めて書く。

働き方の様々と働く未来、若者の働く問題についての理解を深める。日本版O・N・E・Tには、多くの職業情報が掲載されているため、実際に体験させようと考えた。

●学生のレポートから

私は高等学校教員の仕事をウェブサイトで調べた。そこで調べて自分がどのような働き方をしたいのかというところ、初めに自分は保健体育の高等学校教員として働きたいと考えている。保健体育に限らず高等学校教員の仕事は主に担当する教科を生徒に教えることである。このほかには学校が創意工夫を生かした教育活動を展開する「総合的な学習の時間」、ホームルーム活動、生徒会活動、クラブ活動、学校行事などについても指導する。更に個々の生徒に対する生徒指導や進路指導も行い、学級を受け持つこともあり、成長期の生徒を学習面だけでなく、精神面においても支援していくことが求められる。このような調べで、私は保健体育という教科を生徒にただ教えるのではなく、ウェブサイトにあったような生徒に寄り添った働き方をしたいと考えている。